

I 職業訓練用教科書等の使用状況

1. 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

近年、我が国の経済社会を取り巻く環境は、産業構造の急速な変化や技術革新の進展などに伴って大きく変化している。このように経済社会が大きく変化する中で、より高度な技能や技術を持った人材の育成が求められ、企業における教育訓練の推進にあわせて、職業能力開発施設における職業訓練の内容の一層の充実向上が図られなければならない。そのため、職業訓練用教材の果たす役割は極めて大きい。

しかしながら、職業能力開発施設における職業訓練用教材の使用の実態が必ずしも十分に把握されていないので、職業能力開発施設における訓練用教材の整備等の基礎資料とするために、昨年度は普通課程を行う都道府県立能力開発施設（以下、県立施設）の使用状況を調査したところであるが、今年度は全国の認定職業訓練校（以下、認定校）を対象にして職業訓練用の教材の使用状況、問題点等を調査した。

(2) 調査対象

普通職業訓練を行う認定校のうち、アパレル系又は自動車整備系を単独で行う認定校を除く1246校を対象とした。

なお、アパレル系、自動車整備系の普通職業訓練には、民間から適切な教材が供給されているため、教材の整備を検討する必要がないので対象外とした。

(3) 調査の内容

平成8年度における普通訓練について、次の項目を調査した。

- ア 普通課程における訓練科別の教科書等の使用状況
- イ 普通課程における自作教材の作成状況
- ウ 短期課程での労働省認定教科書の使用状況

(4) 調査の時期

平成8年8月から9月

(5) 調査票の回収

調査票は、調査対象施設1246校から663校の回答（回収率53.2%）を得た。

なお、回答校の合計科数は42訓練系・88専攻科の783科となっている。その内訳を専攻科別にみると、建築施工系が34%（224科）と最も多く、そして、金属加工系の9%（73科）、建築仕上げ系の7%（56校）と続いている。また、専攻科別にみると木造建築科が21%（165科）で最も多く、次いで、塑性加工科の7%（55科）、左官・タイル科施工科の6%（50科）となっている。

詳しくは、参考資料2にあるので参照してほしい。

2. 調査結果の概要

(1) 普通課程における教科書等の使用状況

普通課程の教科書等の使用状況を総訓練時間に対する使用時間の割合で見ると、図1のとおりになる。これによると、市販図書(労働省認定教科書を除く。)の使用割合が最も高く38.8%、次いで労働省認定教科書が35.9%、そして自作教材が33.5%となっている。なお、訓練中に教科書等を使用しない割合は22.5%となっている。

この状況を昨年度調査した県立施設と比較してみると、認定校は、県立施設より自作教材の割合が約2割、また、労働省認定教科書が約1割それぞれ高くなっているのが目立つ。特に、認定校において自作教材の割合が高くなったのは農業機械整備科、洋服科等で、ほとんど自作教材を使用して訓練しているからである。

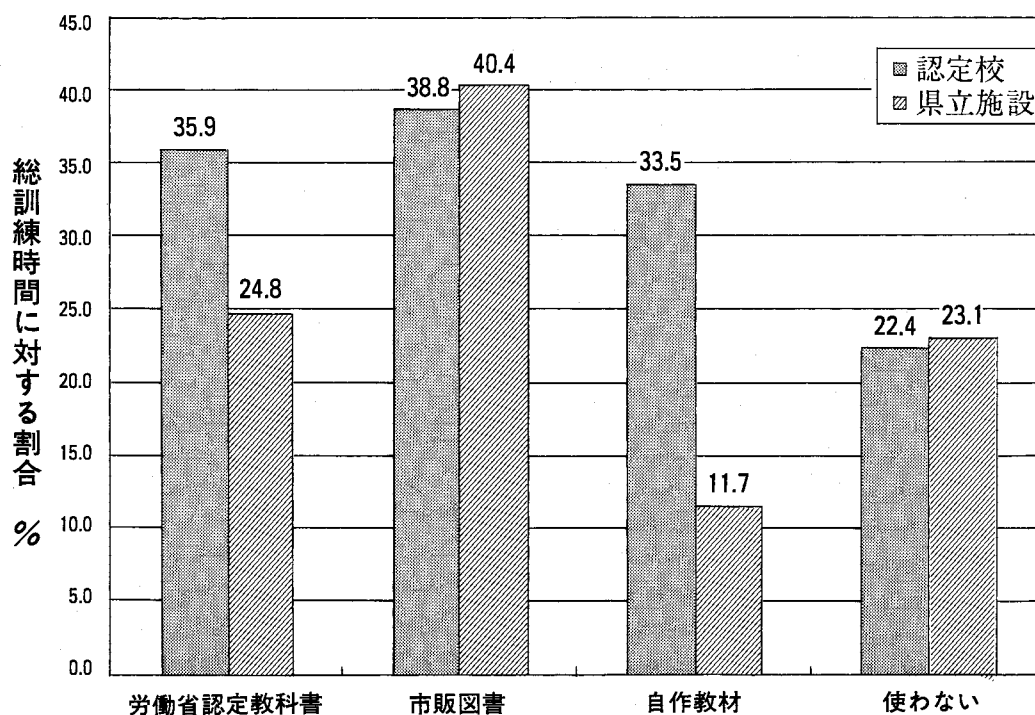


図1 認定校と県立施設の教科書等の使用状況

専攻科別にみると、工業デザイン科、一般事務科、ショップマネジメント科等では、ほとんど市販図書を使用し、労働省認定教科書の使用割合は少ない。

反面、塑性加工科、木造建築科、左官タイル施工科等は、労働省認定教科書の使用割合が7割以上の高い割合を占め、市販図書、自作教材の使用割合は3割前後となっている。

なお、科別の教科書等の使用状況については、参考資料3にあるので参照してほしい。

(2) 普通課程における自作教材の作成状況

次に、自作教材がどのように作成されているかをみると、図2のとおり、科目担当者のおおよそ4分の3が自ら作成しており、おおよそ5分の1が科、校、校外などの担当者と共同して作成している。また、作成した自作教材の保管方法をみると、図3のとおり、作成者が4割強、校が4割弱、科が1割保管している。

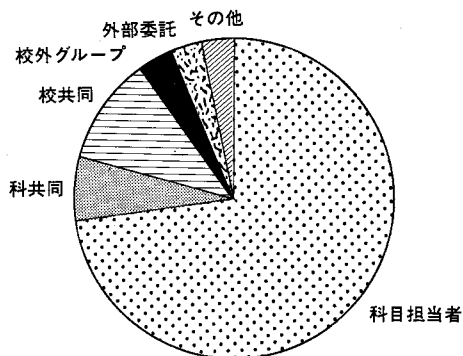


図2 自作教材の作成者

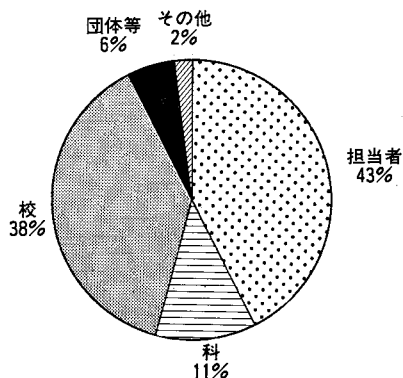


図3 自作教材の保管方法

(3) 短期課程における教科書の使用状況

短期課程における労働省認定教科書の使用状況を訓練受講者別にみると、図4のとおり、作業従事者が最も多く、次に作業管理者、新入社員と続いている。

使用する教科書としては、作業従事者は専門に応じた教科書が多く、次に作業管理者はTWIと1級技能士課程の教科書が多くなっている。また、新入社員、新卒の訓練では安全衛生と概論が、管理職ではTWIが、多くなっている。

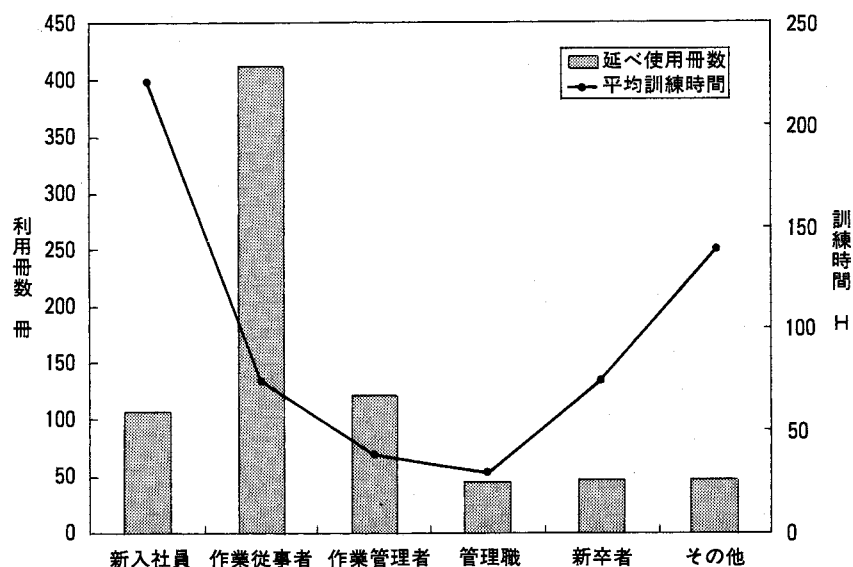


図4 短期課程の教科書等の使用状況

図書教材一覧について

一覧表は図5の構成になっており、出版社名、図書教材名の順にJIS漢字コード配列になっている。図書教材名は相当量を確認しているが、シリーズ名を省略したものや一部異なるものがある。

回答施設数：○施設

図書教材名	出版社名	著者名	価格	難易度			使用方法		
				易	普	難	主	輔	註

図5 一覧表の例

図書教材名

各専攻科で使用していると回答のあった市販図書教材。ただし、回答のあったうち、一部項目がないために確認できなかったものは除外した。

出版社名

図書教材を発行、又は、発売している出版社等である。

著者名

図書教材の著作者名、監修者名、又は、編集者等である。

価格

図書教材の価格。ただし、価格が明確でないものは記入していない。発行年度、消費税等によって正確でない部分がある。

難易度

それぞれの図書教材を訓練生が使用してどのくらい分かりやすいか、回答のあった科の数である。

使用方法

その図書教材を主に訓練で使用している場合は主、主の教科書の補助として使用している場合は補助、訓練で直接使用しないが参考資料として使用している場合は参考として、回答のあった科の数である。

回答施設数

今回の調査に回答した、表題の科を実施している施設の数である。

市販図書は、改訂、廃刊、価格の変更が突然行われることがあるので、注意が必要である。また、出版社等の問い合わせ先については、参考資料4に記載したが、住所等が確認できなかった出版社等は、参考資料4の表からは削除した。